

〈特集：歴史を知り、いまを見つめる①〉  
3月開催 写真展・映画上映会&講演会案内

# パレスチナ・ガザ “サラーム(平和)”はどこに —素顔の日常と歴史を知る—

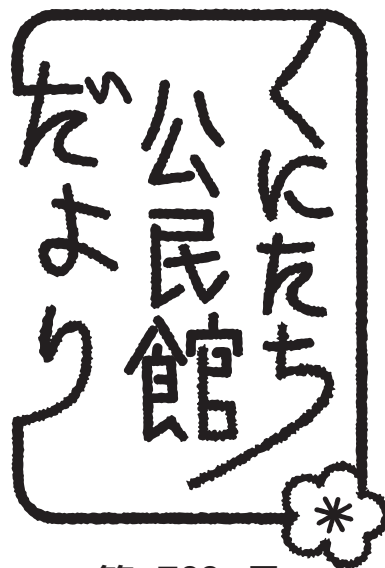


ガザ 破壊された街

パレスチナ・ガザ地区。西を地中海、南をエジプトに接する、東京23区6割ほどの面積の場所です。パレスチナとイスラエルの武力衝突が日々ニュースで伝えられ、それぞれが強い問題意識を抱いていると思います。しかし、私たちはどれくらいガザに生きる人々のことを知っているのでしょうか。

映画『ガザ 素顔の日常』に映し出されるのは、ガザに生きる人々の日常です。14歳のアフマドの夢は大きな漁船の船長になること。19歳のカルマは現実逃避するためチェロを奏でながら、海外留学を夢見ます。サーファーやラッパー、タクシーの運転手、子どもが40人もの生きる傍らには空爆により破壊された瓦礫の山があり、大切な人や家族を失った悲しみが暗い影を落ととしています。「平和が欲しい。ただ普通に暮らしたい」。なぜ、武力衝突が絶えないのか。パレスチナはどのような歴史を歩んできたのか。そもそも、パレスチナ問題とは何なのか。「ニュースで取り上げられることが少なくなっても、現地に生きる人たちの苦しみや悲しみは続いていく。武力衝突が長引くなか、世界から忘れ去られてしまうことが懸念される」と、今回講演される鈴木啓之さんはおっしゃいます。

写真展や映画会・講演会をとおしてパレスチナ・ガザを知り、私たちの足元へとつながる平和について、一緒に考えてみませんか？



第 769 号

2024年 3月 5日

(令和 6年)

「くにたち公民館だより」

ホームページ▶



発行

国立市公民館

〒186-0004

国立市中1-15-1

TEL 042-572-5141

FAX 042-573-0480

休館日：毎週月曜日

## ◆写真展「レンズの向こうのパレスチナ」

とき 3月8日(金)～24日(日) ところ 公民館 市民交流ロビー  
パレスチナと中東地域の教育・保健・福祉分野での支援と人権擁護をおこなう「NPO 法人パレスチナ子どものキャンペーン」が支援活動中に撮影した写真を中心にパネル展示を行います。※会期中自由観覧

## ◆ギャラリートーク「わたしの見たパレスチナ・ガザ —現地スタッフからのレポート—

お話 手島 正之 (パレスチナ子どものキャンペーンエルサレム事務所)  
とき 3月16日(土) 昼2時～4時 ところ 公民館 市民交流ロビー  
申込 3月7日(木) 朝9時～電話で公民館へ 定員 20名 (申込先着順)  
現地で支援活動を行い、一時帰国中の手島さんに、パレスチナ・ガザの「いま」をお話いただきます。

## ◆映画上映会&講演会 ドキュメンタリー映画『ガザ 素顔の日常』 講演「パレスチナとイスラエルの近現代史—ガザで何が起きてきたのか—」

お話 鈴木 啓之 (東京大学)  
とき 3月23日(土) 昼1時半～4時半 ところ 公民館 地下ホール  
申込 3月7日(木) 朝9時～電話で公民館へ 定員 60名 (申込先着順)  
映画上映のあと、鈴木さんからパレスチナが歩んできた歴史や現在の状況の背景についてお話いただきます。

〈映画情報〉2019年/92分/ガリー・キーン、アンドリュウ・マコール監督作品/配給会社 ユナイテッドピープル/字幕版



パレスチナ・ガザ周辺地図



ガザ難民キャンペーンの炊き出し  
(写真提供：パレスチナ子どものキャンペーン)

〈特集：歴史を知り、いまを見つめる②〉2023年10月開催 講座参加者の声

# 関東大震災から100年・シリーズ講座

## —記録と記憶に触れた講座をふり返る—

2023年は関東大震災発生から100年という節目の年でした。公民館では昨年10月、多角的に歴史を学びふり返り、それを過去のものとして風化させないための連続講座「いま、ふり返る関東大震災の記憶」を開催しました。

今回はオプショナルツアーを含め、4回にわたり行った講座に参加された方の感想をお届けします。私たちが生きるのは、過去のできごとと地続きの地平の上。改めて歴史を知り、いまを見つめ、生きる糧としたいと思います。

### 歴史を知り、語り継ぐことの大切さ 川上 和子

関東大震災のことは、映像を通しての情報や一般的な知識しかありませんでした。東京都復興記念館見学会に申し込んだ後、アクセスを調べるため検索し大変驚きました。両国国技館・江戸東京博物館には何度か行ったことがありました。そのすぐ近くに、火災旋風でおよそ3万8千人もの尊い命が奪われた旧陸軍被服廠跡（しょうふくあせ）があったとは。知らないとはこういう事なのだと思えました。

昭和5年に建てられたという慰霊堂の外観は神社仏閣、中に入っても不思議な感覚を覚えました。

### 「いま、ふり返る関東大震災の記憶」

- 第1回 関東大震災とその後  
～政治・社会・人の暮らし～  
2023年10月8日(日)開催
- 第2回 百年前、荒川の河川敷で  
～差別が生んだもうひとつの犠牲～  
2023年10月15日(日)開催
- 第3回 帝都防衛の時代 ～震災から「国民防空」へ～  
2023年10月22日(日)開催
- オプショナルツアー  
関東大震災100年に学ぶ東京都復興記念館見学会  
2023年10月11日(水)開催



東京都慰霊堂（復興記念館隣り）

解説をしてくださった学芸員の森田さんのお話で納得。設計者の伊東忠太さんの思い、震災後訪れた人たちの思い……様々なことに思いを馳せます。

復興記念館で解説を受けながらの見学。その資料一つ一つから訴えるものを感じます。大勢の人が大八車に大きな家財道具を積み、その人々に狭い路地や橋が埋め尽くされた写真からは、動きも遅くなったり被害が大きくなったりという話が実感できます。写真の中には修正されたものがあり（煙がもくもく）、それは被害の深刻さを強調するためとか。当時からそんなことがされていたと驚きます。

強烈に印象に残っているのは、被服廠跡に避難した人々を襲った風向きを示したパネル。人々がひしめき合ったその場所に、すべての赤い矢印が向いていました。午後4時、火災旋風。ひとたまりもありません。パネルをみつめ言葉がありませんでした。未曾有の震災から100年。この講座はタイムリーな企画と思いましたが、「歴史は同じ過ちを繰り返す」「歴史は同じ過ちを繰り返す」……人は愚かで忘れやすい生き物です。それに抗う術は、事実を、真実を知り語り継いでい



学芸員のお話に聞き入ります（復興記念館）

くしかありません。講座第1回の北原先生のお話からは、震災発生時とその後の政治・社会・人の暮らしは決して過去のできごとではなく、いまにつながっていることを知りました。第2回の西崎さんは、ことばで事実を証言すること、を貫かれていました。直接古くから聞いていらしたとは言え、あまりのリア

リティに耳をふさぎたくなる衝動に駆られました。それでも懸命にメモを取りました。「自分もあの時代にいたら同じことをしていたかもしれない」という言葉がとても重いです。第3回の土田先生のお話は、「防災」から「防空」へと次々に変化していくさまを軍や国民の動きと認識、さらに当時の世相とエピソード

ードを史料から解説され、どんな引き込まれていきました。

講座をきっかけに、両国橋の向こうに住んでいて毎年9月1日にお参りを欠かしたことがないという友人と話す機会に恵まれ、地元に住んでいたからこそその彼女の記憶や思いも受け取ることができました。改めて語り継いでいくことの大切さを教えてくださった北原さん、西崎さん、土田さん、そして復興記念館の森田さんに感謝しています。



第1回講師の北原糸子さん  
(立命館大学歴史都市防災研究所)

永遠に終わらない宿題になるわけがない。

「百年前 荒川の河川敷で『差別が生んだもうひとつの犠牲』  
講座第2回を受講して」

金 志源 (キム・ジウオン)

学生時代、関東大震災朝鮮人虐殺のことを初めて知った時、物凄く怒りを感じた。「朝鮮人が井戸に毒を入れた」このデマがどのくらいの人々の命を奪ったのか。そして竹槍で刺し、刀で斬り、川に落とし、焼き殺し、人がこれまで残酷になれるか、といくらじっくり考えても日本に向かって怒りが燃え立った。また、日本軍「慰安婦」や関東大震災朝鮮人虐殺を否定する日本政府のニュースを見ると、なぜ真実を隠蔽しようとする

るのが理解できなかった。その後、私が日本に留学し、国立に住みながら色々な「日本人」に出会って、日本、日本人に対して以前と相反する感情が生じてきた。そして、今日のように関東大震災朝鮮人虐殺についての講座が行われ、講座を受講している方々を見るに、私が過ぎし日感じた怒りはどこに向かうべきだったか疑問に思ったりもする。私こそ烙印を押したり差別を繰り返したりしてきたのではない

のかと。今回西崎さんの講座で印象深かったのは東京から立川まで戻っていたAさんが経験した検問だった。軍や自警団が朝鮮人であることを確認する過程の中、Aさんは自分が日本人であることを証明するために日本人ならなんとなく分かる歌や職業等を話さなければいけなかった。どうにかこうにか検問を通過したAさんとは違って検問を通過できずに無念の死を迎えた福田村事件のような事例も(昨年9月、森達也監督の映画「福田村事件」が公開された)ある。朝鮮人の識別に使われたとされる「15円50銭」は誰が始めたのだろう。この発音を完璧にできる、本物の日本人とは誰を指すのか。この中に朝鮮人、中国人以外にも聴覚障害者、方言が強い人、まだ話がよくできない子どもは含まれるのか。逆に日本語が上手な朝鮮人はこの質問を通過すれば日本人ということなのか。

ここで私は根深い差別意識を感じざるを得なかった。民族差別他に職業差別や地域差別等色とりどりに散らばった差別意識が雪だるま式に積み重なって、一つの巨大な何かに見える。そうやって大きくなった雪だるまは一部の「正常人」にさらに転がされて「正常人」になれない人々を誰彼構わず攻撃したのではなかったのかと思う。そして差別と憎しみは未だにも深刻な問題である。松野博一官房長官は2023年8月31日関東大震災当時の朝鮮人虐殺について、「政府内において事実関係を把握する記録は見当たらない」と発言した。事件に対する日本政府から



第2回講師の西崎雅夫さん(一般社団法人ほうせんか)

年を記念し、真相究明と被害者の名誉回復のための声を上げる方々もいる。そのひとつが公民館で行われた関東大震災講座と云える。荒川で行われた朝鮮人虐殺や遺骨発掘実施、「ほうせんか」設立と活動まで。民間から本当の歴史を蘇らせ、記憶の復元を形あるものにしたのは大変有意義でうれしいことだ。そしてこういう場を作ってくれた公民館関係者や講演者にも感謝の言葉を伝えたい。100周年の2023年を機に、これから関東大震災朝鮮人虐殺に対し、民間や学会の努力に加えて日本政府もまっすぐ直視して真相究明や被害者の名誉回復を始めるとしたら両国の間に永遠に終わらない宿題は決してないと思える。(一橋大学 言語社会研究科修士課程)



第3回講師の土田宏成さん(聖心女子大学)

〈男性の料理入門〉

# 親子でドライカレーを作ろう!

講師 北川 みどり (管理栄養士)

料理が苦手な男性のための料理入門講座。子どもと一緒に、春休みのお昼ご飯を作ってみましょう。

今回はひき肉と野菜を使ってドライカレーを作ります。ドライカレーは比較的短時間で出来上がり、多めに作れば残りを冷凍することもできて便利です。

そのほかに、栄養も考え、ひらひらきゅうりとトマトのサラダ、ヨーグルトバナナジュースを作ります。

とき 3月30日(土) 朝10時~昼1時

ところ 福祉会館 3階料理講座室

定員 親子8組(お祖父さんも可)

※応募者多数の場合抽選

※市内在住・在学・在勤の方優先

費用 1組(子ども1人まで)1,400円

(子ども2人まで)1,500円

(子ども3人まで)1,600円

※3月22日(金)までに公民館へお

支払いください(受付時間:月曜

日以外の朝9時~夕5時)。

持ち物 エプロン、三角巾、ポリ袋(ゴミ持ち帰り用)、ふきん2枚(台ふき用、皿ふき用)

申込先 3月11日(月)夜9時までの間に、ホームページより申込



# 〈図書室のつどい〉 ヒトはなぜ宇宙に魅かれるのか 天からの文を読み解く

お話し 縣 秀彦 (国立天文台)

夜空の星を見上げると、落ち込んでいた気持ちもスーッと薄まっていく……。誰もそんな経験をお持ちかもしれません。いったい宇宙はどこまで広がっているのでしょうか。くにたちの夜空の向こう、宇宙の果てまで国立天文台開発のシミュレーションソフトで旅してみましよう。

宇宙の大きさを知ることで、私たちは広い視点を持つことができます。縣さんのナビゲートで“狭い壺”から抜け出して、“地球という舞台”について一緒に考えてみませんか?春休み期間の開催です。親子(小学校3年生以上推奨)でのご参加もお待ちしております!

〈縣さんの本〉

表題作(経法ビジネス新書)、『面白くて眠れなくなる天文学』(PHP出版)、『地球外生命は存在する!』(幻冬舎)、『星の王子さまの天文ノート』(河出書房新社)ほか



とき 3月30日(土) 朝10時~12時

ところ 公民館 地下ホール 定員 60名(申込先着順)

申込先 3月13日(水) 朝9時~

電話またはホームページより申込

〈憲法講座〉

# 表現の自由はなぜ問題になるのか

—誰もが「表現者」になる時代の基礎知識—

講師 志田 陽子 (武蔵野美術大学)

SNSなどの普及によって、誰もが「表現者」になる時代になりました。一方、「表現」は人の感受性や自尊心を傷つける可能性を常に持っています。その「表現」を先回りして傷つく人がないようにと公権力が規制をしてしまえば、あらゆる「表現」が立ち行かなくなることがあります。だから「これは不快な言論だ」などと思ったら、一般の人が「私にとってその表現はつらい」「子どもに見せたくない」などと対抗言論を行うことが期待されています。また、「表現」に対して国家や自治体が規制をする場合には、強い必要性がなければならぬとされています。

しかし、私たちの現実社会では、表現や芸術など文化活動をめぐってしばしば衝突が起きてきました。こうした「事件」をふり返りながら、「表現の自由」の基礎知識について、ともに学びたいと思います。

とき 3月24日(日) 朝10時~12時

ところ 公民館 地下ホール

定員 60名(申込先着順)

申込先 3月8日(金) 朝9時~

電話またはホームページより申込



〈公民館開館70周年プレ学習会〉

# 高度経済成長期のくにたち

—1950~70年代「くにたち公民館だより」から—

講師 辻 浩 (社会教育・生涯学習研究所)

二村 玲衣 (岐阜大学)

くにたち公民館は、2025年11月に開館70周年を迎えます。そこで、くにたち公民館のあゆみを振り返るプレ学習会として、今回は初期の「くにたち公民館だより」を手がかりに、高度経済成長期のくにたちを振り返ります。

名古屋大学では、辻浩さんが中心になって、「高度経済成長と社会教育」をテーマに共同研究を行ってきました。そのなかで、1950~70年代の「くにたち公民館だより」を分析対象とした研究を公表されています。

今回は、その研究成果から、くにたちの街の発展と公民館が果たした役割をたどり、改めて「くにたち公民館だより」を再読する意義について、考えたいと思います。

〈辻さんの本〉

『共生と自治の社会教育』(旬報社)、『高度経済成長と社会教育』(大空社出版・編著)ほか

とき 4月13日(土) 昼2時~4時

ところ 公民館 3階講座室 定員 25名(申込先着順)

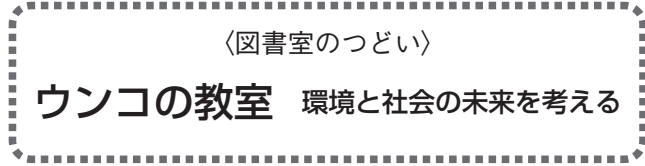
申込先 3月13日(水) 朝9時~電話で公民館へ



監督 小津安二郎  
 出演 佐分利信、田中絹代、山本富士子、有馬稲子、  
 久我美子、浪花千栄子、佐田啓二、笠智衆 ほか

一貫して《家族》というテーマを描き続けた、日本映画を代表する巨匠・小津安二郎初のカラー作品。当時松竹の看板女優だった有馬稲子と久我美子に加え、名女優・田中絹代と浪花千栄子、さらに大映のスター女優・山本富士子など豪華な女優陣が華を添え、円熟期を迎えた小津監督らしい飄々としたユーモアと味わい深い演出もいっそう冴えわたる名作。

とき 3月24日(日) 昼2時～(開場昼1時30分)  
 ところ 公民館 地下ホール 定員 70名(申込先着順)  
 申込先 3月12日(火) 朝9時～電話で公民館へ  
 \*事前申込み制となっています。必ず電話もしくは窓口にて事前にお申込みください。  
 \*今回から換気のための途中休憩はありません。



お話し 湯澤 規子 (法政大学)

私たちが生きていくために欠かせないものでありながら、普段はまともに語られることの少ない「ウンコ」。しかし、講師の湯澤さんは衣食住に「便」を加えた視点で世界を見渡すことで、思いがけない発見があるといいます。

今回は表題の書籍の内容を中心に、学校でウンコがしにくいという課題や、トイレをめぐる各国の事情、ウンコと食物の循環、そして私たちが「ウンコと生きる」ということなど、多岐にわたる探求についてお話いただきます。

ウンコという身近な切り口から、環境と社会の未来と一緒に考えてみませんか。

〈湯澤さんの本〉

表題作(ちくまプリマー新書)、『おふくろの味 誰が郷愁の味をつくったのか』(光文社新書)、『焼き芋とドーナツ 日米シスターフード交流秘史』(KADOKAWA)、『7袋のポテトチップス 食べるを語る、胃袋の戦後史』(晶文社)ほか

とき 4月20日(土) 昼2時～4時  
 ところ 公民館 地下ホール  
 定員 60名(申込先着順)  
 申込先 3月14日(木) 朝9時～  
 電話またはホームページより申込



くにたち デジタルブック

過去の公民館だよりをご覧になりたい方は、『くにたちデジタルブック』もご活用ください。

国立市デジタルライブラリー 検索

**公民館運営審議会報告**

2月13日(火) 第34期第16回定例会を開催。委員13名。館長、職員2名出席。傍聴人1名。

**前回事務録確認** 一部修正あり

**報告事項**

公民館だより編集研究委員会、社会教育委員の会、東京都公民館連絡協議会より報告と質疑。

2月3日に開催された東京都公民館研究大会の参加者より「公民館利用者を増やすための事例紹介」などは、もっと時間が欲しかったなどの感想などが紹介された。社会教育学習会からは昨年8月に行われた学習会の記録が配布された。令和4年度の決算報告は、館長

より不用になった予算額の大きかったところなどの説明があった。

**審議事項**

○人事要望書の回答について  
 市長・教育長より出された回答について、3月の人事を見た上で面談を求めることを確認した。

○諮問「公民館の運営や事業に『市民の声』を活かしていくための方法や工夫について」  
 インタビュー検討班より、3月末までに第一弾として5名に行うとの説明があった。第二弾以降の候補者について意見交換、事業アンケート検討班も加わった上で、対象者別に分かれて検討していくこととした。

次回3月12日(火) 夜7時15分から講座室。傍聴歓迎。(西尾)

〈職員不定期コラム「公民館の窓」〉  
**甲野勇さんの邂逅**

国立市にお住まいだった考古学者・甲野勇さんをご存じでしょうか。甲野さんは戦後国立市に転居され、国立音大で人類学の教鞭を執られた方で、公民館の初代・2代公選審委員長でもあります。

私が甲野さんと出会った(知った)のは、四半世紀以上も前。学生時代の考古学史の教科書で、縄文土器の編年研究の第一人者として一方的に暗記したものでした。

再会は卒業後、学芸員として務めた郷土文化館。国立市は甲野さんのご遺族から、書籍や論文の抜刷、メモ等約七千点の寄贈を受け、その整理・調査・研究が私の最初の仕事でした。翌年

に、企画展「甲野勇の軌跡」を実施し、甲野さんの多岐にわたる業績を紹介できたことは私の一つの画期でした。

その後は、ご遺族との年賀状のやり取り程度でしたので、四半世紀後に公民館で邂逅するとは想像外のことでした。

戦中の誤った歴史観による教育に対し考古学がもたらした無力であったことを深く悔やまれた甲野さんは、戦後、中高生への遺跡の発掘指導や、地域博物館を創設し講座を通じてその思いを市民に伝えたりと、実物資料に基づく実証主義的な歴史教育に力を注ぎました。国立における公民館活動もその一環で、自由な学びをとっても大切にされました。

甲野さんと深く縁した者として、公民館の「自由な学びの場」を守っていききたいと思えます。(A・S)

### 今月の公民館 (3月~4月)

- 8日(金) ~ 写真展「レンズの向こうのパレスチナ」
  - 10日(日) 昼~「『82年生まれ、キム・ジヨン』を読む」
  - 16日(土) 朝 性教育講座②  
「いのちとからだのおはなし ~子どもと一緒に学ぶ性教育~」
  - 16日(土) 昼 ギャラリートーク「わたしの見たパレスチナ・ガザ」
  - 23日(土) 昼 映画上映会「ガザ 素顔の日常」  
&講演会「パレスチナとイスラエルの近現代史」
  - 24日(日) 朝 憲法講座「表現の自由はなぜ問題になるのか」
  - 24日(日) 昼 CINEVOX「彼岸花」
  - 30日(土) 朝 図書室のつどい「ヒトはなぜ宇宙に魅かれるのか」
  - 30日(土) 朝 男性の料理入門「親子でドライカレーを作ろう!」
  - 4月13日(土) 昼 公民館開館70周年プレ学習会  
「高度経済成長期のくにたち」
  - 20日(土) 昼 図書室のつどい  
「ウンコの教室 環境と社会の未来を考える」
- 講座の開催状況などに変更があった場合は、公民館入り口付近への掲示や、ホームページでお知らせします。ご不明の点はお問合せください。
- 公民館 ☎ (572) 5141



公民館の状況▲



## ひろば

### 楽しく歌おう「ひまわりの会」

指導の先生はピアノリストで、表現豊かな演奏で参加者を曲の世界へ引き込み、また歌う楽しさを感じさせてくれます。童謡、唱歌、日本や世界の名曲を歌います。

日時 第2、4水曜 朝10時  
場所 北市民プラザ多目的ホール  
連絡先 新里(577) 1062

### 楽しい歌の会のお誘い

楽しく歌って心と体を元気にしませんか。春の歌を中心に童謡から歌謡曲まで幅広く、素敵なピアノ伴奏で歌います。初回参加費無料。お気軽にご参加ください。

日時 3月14日(木)・28日(木)朝10時  
場所 南市民プラザ多目的ホール  
連絡先 川端(585) 7579

### リコーダの会「木星」会員募集

誰でも吹けるリコーダで音楽を楽しみませんか。12月の発表会に参加しリコーダのアンサンブルを楽しんでいます。初心者大歓迎。先生が親切丁寧に指導します。

日時 第2、4木曜 夜7時  
場所 公民館 音楽室  
連絡先 畑(573) 0678

### マインドフルネスを楽しむ会

アメリカの大企業でも取り入れられている瞑想法。アスリートや受験生の集中力アップ、自律神経の安定等効果があります。お気軽にお越しください。参加費無料。

日時 3月17日(日)朝10時半~12時  
場所 公民館 講座室  
連絡先 酒井(580) 3095

### くにたち混声合唱団ときわ

第45回定期演奏会。邦人曲/鈴木憲夫作品、小オルガン・ミサ/ハイドン作曲、楽しい合唱曲(懐かしいポップス他)をお届けします。皆様どうぞご来場ください。

日時 3月17日(日) 昼2時開演  
場所 府中の森ウイーンホール  
連絡先 高橋(574) 7426

### 5月(ロビー6月分) 会場調整会のお知らせ

申込書のポスト投入期間	3月2日(土)~28日(木)
公用使用の貼り出し	3月12日(火)頃 (11日以降の休館日を除く最初の平日)
予約の重なりがあった団体の掲示開始日	3月30日(土) 重なり状況▶
会場調整会	4月6日(土)朝10時~

※会場調整会は朝10時までに受付を済ませてください。

### 〈サークル訪問389〉 ピースリーディング結

朗読を通して平和への思いを伝えるピースリーディング。始まりは2014年と15年の2年連続の公民館事業だ。「非戦を選ぶ演劇人の会」の方々が何人も交代で講師となり指導した。当時は集団的自衛権等、憲法解釈の変更が社会問題となっていた頃である。憲法や平和を伝える手法としてピースリーディングは「何て斬新で魅力的なんだ!」と本番の朗読発表会を見た私は感動したことを覚えている。事業終了後は、自主サークル「結」として活動を続けてきた。

後半は沖縄や憲法の問題等、各メンバーが関心のあるテーマをもとに参加者との対話を行い、政治等に関する日頃の疑問や思いを互いに共有する場となった。

後日、再びメンバーにお話を伺った。かつての公民館事業を振り返りながら、「市民と演劇のプロとの共同作品ができたのは国立というリベラルな地域性や公民館担当者との熱い思いがあったのでは?」「朗読の発表は大変だけれど楽しいよね」「言葉の掛け合いが共に創る喜びになった」「政治をもっと語りたかね」等、話は尽きない。

今回の発表会前半はメンバー3人による朗読。原爆で亡くなった旧制広島一中生徒の遺族の手記『星は見てる』(※俳優 紺野美沙子さん主宰の「朗読座」による台本)が題材だ。メンバーの1人が操作する映像を背景に3人が手記を読み上げていく。内容は原爆投下前の前夜に、自宅の屋根に登って満天の星を見ながら親子で会話をしたことを母が息子を偲びながら回顧するものだ。戦争、平和、命を巡る息子と母の言葉や思い。読み上げる言葉のひとつひとつに熱が入る。

戦争が身近にある時代。今だからこそ伝えたい思いがある。活動を続けること、思いを表現すること。不断の努力が明日の平和を創るのだと伝わってくる。10年を経て、新たなピースリーディングへの挑戦が楽しみだ。

日時・場所 不定期・公民館等  
連絡先 龍野(590) 1094  
〈文・写真 幸島 裕子〉



発表を終えて、「平和への一歩はできることをひとつひとつ」